

厳島神社：子持山姥

絵馬に描かれている絵は、動物や歴史上の英雄、その他の縁起の良いモチーフだけが全てではありません。京都の絵師、長沢芦雪（1754～1799 年）によるこの絵は、恐ろしい見た目の山姥（「山の魔女」）とその養子を描いています。その男の子は、日本の昔話には欠かせない伝説の 1 つを持つ金太郎です。箱根（東京のすぐ南）の山で山姥に育てられた金太郎は、幼い頃から怪物や悪霊と戦った超人的な強さを持つ子供でした。暇な時は小さな家ほどもある大きな岩を投げ、素手で木を倒していました。芦雪は、母親によじ登っている幼少期の金太郎を描いています。母親の着ている着物はかつては色鮮やかだったものの、今では色あせており、彼女の過去が京都の遊女であることを示唆しています。この絵師の最高傑作の 1 つと見なされているこの絵は、1797 年に広島裕福な商人のグループによって厳島神社に寄贈されました。その中には、寄贈の数年前に広島を訪れていた芦雪に宿を提供した人たちもいました。ここに展示されている絵は模写です。